

宮城県迫川の白鳥

増 森 彦 介

1. 白鳥のエサ

本年も白鳥のシーズンが来ました。当地宮城県は今年は冷害のため米が不作となりました。普通の年ですと反当り10~12俵は取れますが、今年は5~6俵しか取れません。農家でない私は今年は冷害だから白鳥のエサにいただくシイナ、クズ米等が多く出るだろうと思いましたが、ところが現実には例年の10分の1しか出ていません。米の取れない年はシイナ、クズ米もできないという農家の人々の話に白鳥のエサ集めに当る私としては本当に困りました。しかし、NHKテレビ等の協力で、パンを集めることを県民に呼びかけましたところ、各パン工場、販売店の協力でパンの集荷の予定ができて一安心しています。

昨年までは三つの倉庫と公民館のストーブ倉庫、役場の非常階段の下などを無断で利用させていただき約3,000袋のシイナ、クズ米等を用意しましたが、今年は300袋がやっとです。そのため他県のライスセンター等を廻ってクズ米等を買付けしています。

若柳町位置図

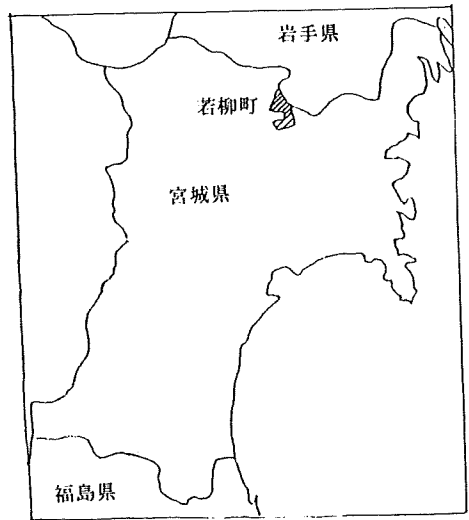


図1 若柳町位置図

2. 白鳥の数

本年の白鳥の行動が昨年までと異なっただと思われます。また一つの発見をしました。昨年の宮城県若柳町迫川の白鳥の集計を見ますと、私の報告と新田の方の報告の二通り昨年の会報に出ていました。若柳町迫川は二カ所は無く、二人の報告を会報に掲載したのだと思います。二人の白鳥のカウント数が随分違う数字が1月と2月に出ていました。約半分くらいの違った数字になっていて、同じ若柳町迫川の報告の違いに驚いていましたが本年の白鳥の行動を見て納得ができました。早朝、迫川に1,000羽近くいた白鳥も20分位の時間の違いで、白鳥の数が半分近くに減り、さらに1時間も経つと15~20羽くらいの残となります。

63年11月10日に若柳町迫川に新しく第一大橋が現在の橋の15m上流にできました。午前中に開通式、渡り初めの行事がありました。私もビデオにこの行事を写すため、白鳥の午前のエ(餌)付けを休みました。もちろん午後のエ付けは早めに行いました。この時は約280羽いました。

11月10日は宮城県の各農林事務所が行っている白鳥を始めガン、カモ類の飛来数の第一回一斉調査日ですが、翌日の新聞には若柳町迫川の数が出ていませんでしたので驚きました。私は所轄の栗原農林事務所に電話で問い合わせたところ、10日の調査日には若柳町迫川は25羽しかおらず、他には町内の田圃に75羽ほどいたと報告があったそうです。なるほど新聞に載らぬはずだと一応は納得しました。その後11日午前10時半にエ付けに行きましたが20羽しかいません。なるほど農林事務所の話が本当でした。しかし、午後4時頃川に行きますと約300羽のコハクチョウがいました。エ付けをすると白鳥は元よりカモ類等も多数集まってきました。12日午前9時半頃エ付けに行きますと白鳥が12羽のみでした。私はこれでは若柳町から白鳥が出て行くのではないかと心配しがっかりしましたが、しかし、夕方行ってみますと前日と同じく約300羽いました。

3. 白鳥とカモ

11月12日午後3時頃、仙台市内より東北学院大学の学生が私の店に来て、若柳町で私一人が白鳥のエ付けしていることについて、「どのような主義主張で長い年月白鳥のエサ集めから、毎日のエ付け等をしているのか」ということでしたが、私は返事に困りました。考えてみますと白鳥の世話を約17

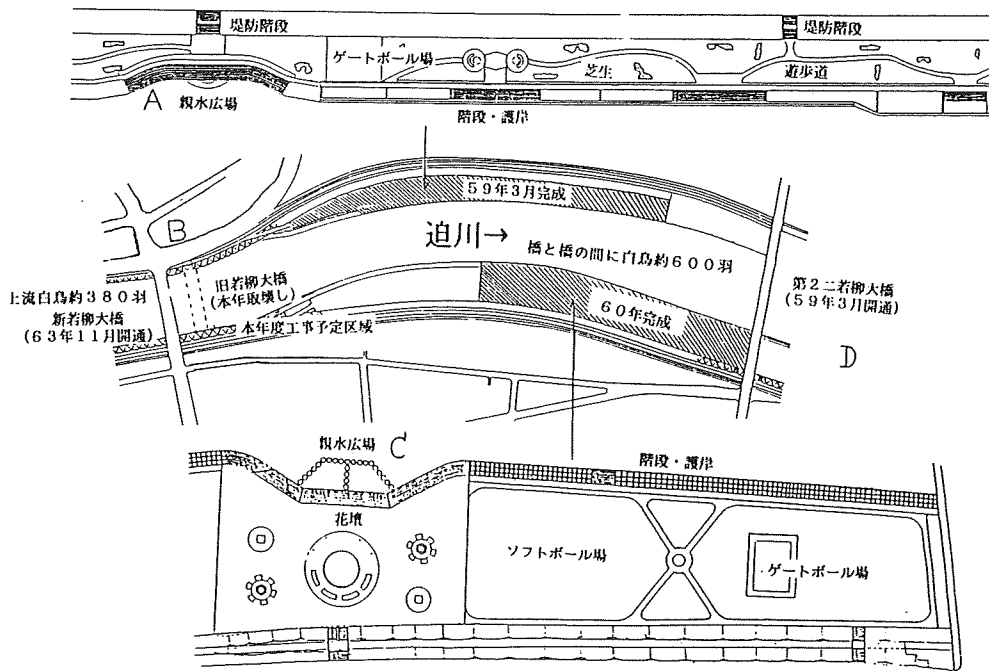


図2 平成1年1月8日の迫川の状況

- 注A 昨年まで白鳥のエ付けする所を作りましたが、階段が約3段目から水没、そのためエ付け場も水中に没した。
- 注B この付近の地域は、都市計画により旧道を広げて16m幅の道路に改造、現在工事中である。
- 注C 完成してわずか3ヶ月で水没、現在は砂に埋まっている。
- 注D 狩猟解禁地区で、ハンターが入るため白鳥はいません。

年間していますが、始めのころはいろいろな人々が時々世話した時もありますが2～3年で皆さんは忘れたようです。エサ代に店のお金をちょろまかしたり、思いだして見ますと我ながら物好きでした。

明朝、鳥の声を録音しながら私の話を聞きたいとのことなので朝早く来るように話しました。失礼ながら本当に朝早く来るとは思っていませんでしたが、私との約束通り午前6時半頃に来町し迫川の白鳥を見学してくれました。白鳥たちは総数で350羽いたこと、午前7時40分頃より8時半頃にかけて15～20羽位の編隊で次々に飛び上がって行ったこと、迫川から朝焼けの空に飛び出す白鳥の姿が美しく、感動的であったという報告でした。

白鳥が田圃に採餌に飛び立った後は、迫川はカモ類の天下となります。2～3年前よりカモが多数飛来し、特に今年は多くなりました。私がエ付けを始めますと川一面にわがもの顔で寄ってきます。もちろん私は20～50羽位残っています白鳥を目的にエ付けをしますが、川岸は約2,000羽のカモで埋まり白鳥はなかなかエサにありつけません。私のエ付けの行動、エ付けに廻る場所の順次を良く知っており次々に先廻りしてはエ付け場所を埋めつくします。2,000羽のカモが次の場所に移る時、飛び出し、飛び来るカモで目の前の空が真っ黒というか、ゴマを撒くように目の前が埋まります。この時に白鳥見物に来た皆さんは驚いて頭を両手で覆います。うっかりするとカモが頭に当るように思うためです。

4. 白鳥の田圃

白鳥は前述の通り田圃の落ち穂拾いに出かけます。私が農家に出かけて岡の上の農家の庭先から平野（田圃）を見渡しますと100～200羽位の集団で広い見通しの良い田圃の中を歩きながらエサ（草、水たまりの藻類、落ち穂等）を食べています。

白鳥が採（餌）する田圃は干田も困りますし、低い土地の泥田でないといふと白鳥は採食できません。このように気楽に平野に出て食事をすると一応の条件は満たしていますが、年々白鳥が沼、川を離れて田圃に出て行く数は増えていきます。田圃に飛び出すといふも一応白鳥の集まる場所は決まっています。

5. 白鳥のエ付け

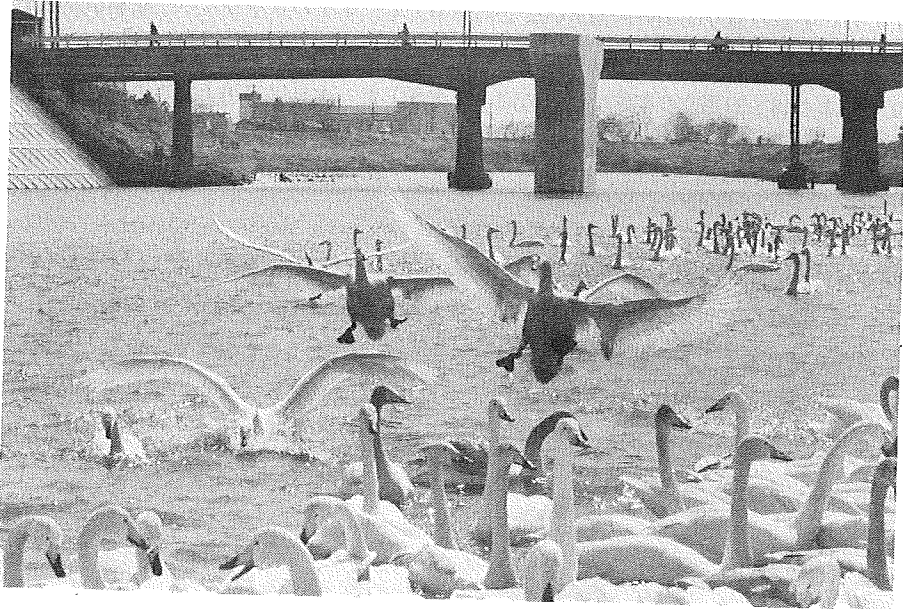
11月13日、午後4時半頃よりエ付け作業を行っていますと、5時頃川面は薄暗くなる。しかし、上空は夕焼け空でこれを背景に白鳥は5、6分の間に次々と帰って来ます。暗くて、オオハクチョウ、コハクチョウまた成鳥、幼鳥の見分けはできません。短時間に暗い空から湧き出てくる白鳥の編隊の員数調べは大変です。

東北学院大学の学生の「早朝には白鳥が沢山います」という言葉を頼りに早朝、迫川に行くと800～1,000羽の白鳥が川面をまっ白に埋めつくしていました。すぐエ付けを始めましたが集団の一部の50～60羽位が反応してエサを食べに寄って来ましたが、多すぎるカモに邪魔されてエサを食べるのに苦労していました。他の白鳥は私の近くに来る様子もなく知らん顔して川の中で自然のまま休んでいました。何分にもカモが多すぎます。生活の知恵といひますか、頭脳が良いと思います。

11月15、16日と朝早くエ付けに行きますと約800～1,000羽の白鳥がいました。急いでエサを与える

と3分の1位の白鳥がエサを食べるようになりやれやれです。

カモ対策としてエ付け場所を50m位に分けて、場所を5ヶ所に増やしましたところうまく行きました。下流からエサを次々に撒いて行くと、カモは私の動きに合わせて上流の新しく撒くエ付け場所へ移動してきます。カモを早く移動させることにより前に撒いて沈んでいるクズ米や次々に流す砂状の細かい米を白鳥が食べることができます。また、パンは小さくちぎって遠くに投げてやると白鳥が食べやすくなります。



若柳町迫川の白鳥

6. 白鳥のカウント

11月27日朝、エ付けに行きますと迫川の堤防の上で消防演習を行っていましたが、川の白鳥はサイレンの音に驚きもしません。私は川岸での花火はしないように役所に申し入れましたが実施され、その打上花火の音には多少驚きはしましたが飛び上がりませんでした。

本日は川の中に霧が立ちこめて見通しが良くありません。オオハクチョウ、コハクチョウの別、成鳥、幼鳥の見分けは良くできませんでした。しかし一応調べた白鳥は1,050羽いました。白鳥のカウントをするとき近くから飛び出す白鳥の数は数えることができますが、200～300m離れますと羽数を見分けるのが難しくなります。次々に飛び出すので私の気持は焦ってなかなかカウントができません。昨年までは川の中の水面上のカウントでした。これとて白鳥は動き廻りますが飛び出しているときのカウントよりは楽です。迫川から飛び出した白鳥は広範囲の田圃に行きますが、伊豆沼には行きません。

11月27日にカウントした白鳥の数は次の通りです。

午前8時 オオハクチョウ、コハクチョウ 総数 1,250羽

午前 9 時	オオハクチョウ	成鳥 15 羽	幼鳥 11 羽	総数 672 羽
	コハクチョウ	成鳥 598 羽	幼鳥 48 羽	
午前 9 時半	オオハクチョウ	成鳥 15 羽	幼鳥 11 羽	総数 453 羽
	コハクチョウ	成鳥 393 羽	幼鳥 34 羽	
午前 10 時半	オオハクチョウ	成鳥 8 羽	幼鳥 11 羽	総数 66 羽
	コハクチョウ	成鳥 42 羽	幼鳥 5 羽	

10時半の見回りには孫を連れて行きました。この時間は良く晴れわたり迫川の堤防の上は家族連れで一杯でした。上記の通り66羽の白鳥がいましたが中でも、オオハクチョウの二家族が愛敬を振りまいていましたので白鳥の見物の人々は満足しているようでした。

夕方 4 時頃より 18～25羽位の編隊で次々に帰って来ました。本日は迫川上空に来ると無風状態のためかすぐ着水し、東西南北、四方八方より次々に帰ってくる編隊を見るのは大変素晴らしいものです。

7. 白鳥の成鳥と幼鳥

11月28日日本日、オオハクチョウの集団が迫川に来ました。雌雄の両親が11羽、13羽と幼鳥を多数連れて、100羽、200羽と集まっている大集団から少し離れたところに、幼鳥だけの集団を作っているのが今年は特に目立ちます。これはコハクチョウについても言えることですが、成鳥と幼鳥合わせて8羽(成鳥2・幼鳥6)に両親を失った幼鳥が5羽入り込んでいるか、また、成鳥2羽に幼鳥5羽、3羽、4羽と三家族の幼鳥が入り込んでいるからなのかも知れません。単体の成鳥、幼鳥は100羽、200羽の集団にいますが、幼鳥が11羽、13羽と幼鳥が多い家族は集団より少し離れた場所にいるのが目立ちます。マガン1羽が混じっている家族もあります。そのガンは白鳥の家族と一緒に行動しています。このような集団にエサを投げますと全員仲良く食べますが、大きい集団は家族でエサの独占を目指し、成鳥は他の家族の白鳥の追い出しに奮闘します。これは迫川だけの現象でしょうか。

8. 白鳥の移動

12月5日頃までに迫川を寝ぐらにしていたコハクチョウは3分の1を残して南下したようです。朝飛び出した白鳥のうち迫川に帰って来る割合が減ってきています。新しく来た集団も2～3日休んで入れ替わりに南へ移動して行きます。

9. 終わりに

当地方では冷害のためエサ不足といわれましたが、皆さんの応援のお陰でパンを続々送っていただいて何とか今年は乗り切れそうです。

愛鳥会の人々も口だけ出すのではなく、直接行動する集まりにしたいものです。白鳥は自然界の変化を敏感に捉えながらも、人々を教育し、人間社会に適応できる動物であると信じます。